

## 清須市人口ビジョン（案）の修正点に係る新旧対照表

該当箇所	修正後	修正前
2 頁	<h2 data-bbox="329 222 617 262">2 人口の現状分析</h2> <p data-bbox="329 317 1552 405">※人口の現状分析における数値については、数値の基準日が、平成 17 年 7 月 6 日以前の場合は、旧西枇杷島町・旧清洲町・旧新川町・旧春日町の数値を合計し、平成 17 年 7 月 7 日から平成 21 年 9 月 30 日までの期間は、旧清須市・旧春日町の数値を合計している。</p>	<h2 data-bbox="1581 222 1869 262">2 人口の現状分析</h2>
11 頁	<h3 data-bbox="329 432 676 472">2.1.5 転出入(社会増減)</h3> <p data-bbox="329 506 1552 678">転出や転入等に伴う社会増減数については、経済動向や社会的な出来事の影響で年によって大きな変動があります。<u>特に東海豪雨によりこの地域が甚大な被害を受けた 2000 年は、転出が転入を大きく上回っています。なお、市町村合併により清須市となった 2005 年以降は、</u>おおむね転入が転出を上回る（社会増）年が多くなっています。</p>	<h3 data-bbox="1581 432 1929 472">2.1.5 転出入(社会増減)</h3> <p data-bbox="1581 506 2804 632">転出や転入等に伴う社会増減数については、経済動向や社会的な出来事の影響で年によって大きな変動がありますが、<u>2005～2014 年の 10 年間は、</u>おおむね転入が転出を上回る（社会増）年が多くなっています。</p>
20 頁～ 23 頁	<p data-bbox="329 705 492 745">「農林<u>漁業</u>」</p> <p data-bbox="329 762 952 802">出典：総務省「経済センサス<u>活動</u>調査」（2012）</p>	<p data-bbox="1581 705 2059 745">図表中の「農林<u>水産業</u>」の表記全て</p> <p data-bbox="1581 762 2377 802">出典：総務省「経済センサス<u>基礎</u>調査」（2012）の表記全て</p>
35 頁	<h2 data-bbox="329 831 724 871">5.1 低調な観光・交流人口</h2> <p data-bbox="329 884 1552 1094">平成 26 年の本市の滞在人口率については、平日・休日ともに県内（名古屋市を区単位とする 69 市区町村）では 20 位代となっていますが、休日の順位が相対的に低い状況となっています。その要因としては、平日は製造業を中心とした産業の集積により、就業の場としての一定程度の市内への流入がある一方、休日は、市外や県外からの観光誘客が低調なためと推察されます。</p> <p data-bbox="329 1110 1552 1367">「尾張西枇杷島まつり」を始めとする本市を代表するまつりについては、一定程度の誘客があるものの、恒常的な誘客の核となる「清洲城」については、入場者数は増加傾向にある<u>一方で、知名度を考慮するとまだ誘客の余地があるといえます。</u>「清洲城」をはじめ、本市は「美濃路」や「朝日遺跡」など歴史的資源を豊富に有しており、これらを生かした更なる観光の振興、とりわけ、リニア中央新幹線の開業を見据えた、ショートトリップ観光の促進により、交流人口の拡大を図り、地域の活力を醸成する必要があります。</p> <h2 data-bbox="329 1383 795 1423">5.2 若年層の人口流出・定住化</h2> <p data-bbox="329 1436 1552 1646">本市の転出入（社会増減）の状況は、年によって変動があるものの、2005 年からの 10 年間は、おおむね社会増の年が多くなっています。一方で、20 歳代前半の男性の流出超過傾向が顕著に表れています。また、近年の傾向としては、20 歳代後半から 30 歳代前半にかけては流入超過の傾向が見られ、市内の居住年数を見ると男女ともに 25～34 歳では「5 年未満」が 5 割を超えています。</p> <p data-bbox="329 1663 1552 1835">「住まい・子育て・結婚に関するアンケート」結果では、若い世代にとって暮らしやすい清須市をつくるために市が今後更に充実させる必要があることとして、「子育て支援」が最も高く、次いで「商業・娯楽施設の充実」、「仕事と家庭の両立の推進」、「教育の充実」となっています。</p> <p data-bbox="329 1852 1552 1923">将来的な自然増・社会増の鍵を握る若年層の人口流出防止や定住化に向けては、若い世代が求める子育て支援施策等の充実に努める必要があります。</p>	<h2 data-bbox="1581 831 1976 871">5.1 低調な観光・交流人口</h2> <p data-bbox="1581 884 2804 1094">平成 26 年の本市の滞在人口率については、平日・休日ともに県内（名古屋市を区単位とする 69 市区町村）では 20 位代となっていますが、休日の順位が相対的に低い状況となっています。その要因としては、平日は製造業を中心とした産業の集積により、就業の場としての一定程度の市内への流入がある一方、休日は、市外や県外からの観光誘客が低調なためと推察されます。</p> <p data-bbox="1581 1110 2804 1367">「尾張西枇杷島まつり」を始めとする本市を代表するまつりについては、一定程度の誘客があるものの、恒常的な誘客の核となる「清洲城」については、入場者数は増加傾向にある<u>ものの、十分に誘客が図られているとは言い難い状況です。</u>「清洲城」をはじめ、本市は「美濃路」や「朝日遺跡」など歴史的資源を豊富に有しており、これらを生かした更なる観光の振興、とりわけ、リニア中央新幹線の開業を見据えた、ショートトリップ観光の促進により、交流人口の拡大を図り、地域の活力を醸成する必要があります。</p> <h2 data-bbox="1581 1383 2047 1423">5.2 若年層の人口流出・定住化</h2> <p data-bbox="1581 1436 2804 1646">本市の転出入（社会増減）の状況は、年によって変動があるものの、2005 年からの 10 年間は、おおむね社会増の年が多くなっています。一方で、20 歳代前半の男性の流出超過傾向が顕著に表れています。また、近年の傾向としては、20 歳代後半から 30 歳代前半にかけては流入超過の傾向が見られ、市内の居住年数を見ると男女ともに 25～34 歳では「5 年未満」が 5 割を超えています。</p> <p data-bbox="1581 1663 2804 1789">「住まい・子育て・結婚に関するアンケート」結果からは、<u>若年層が清須市から転出する理由として、「魅力的な店舗や飲食店がないから」、「名古屋市の方がイメージがよいから」のほか、「子育て支援策が少ないから」といった理由も上位に挙げられています。</u></p> <p data-bbox="1581 1806 2804 1923"><u>さらには、同アンケートにおいて、若い世代にとって暮らしやすい清須市をつくるために市が今後さらに充実させる必要があることとして、「子育て支援」が最上位に挙げられています。</u></p> <p data-bbox="1581 1940 2804 2011">将来的な自然増・社会増の鍵を握る若年層の人口流出防止や定住化に向けては、若い世代が求める子育て支援施策等の充実に努める必要があります。</p>